

毎日新聞 2017年1月5日 22時56分(最終更新 1月5日 22時56分)

## 大阪・呼吸器電源切れ

### 女性准看護師と施設長を書類送検

#### 大阪府警、業務上過失致死容疑で

大阪府吹田市の介護付き有料老人ホーム「メディカル・リハビリホームくらら吹田」で昨年8月、入所していた女性（当時68歳）が死亡し、大阪府警は5日、人工呼吸器の電源を入れ忘れたなどとして、女性准看護師（53）＝兵庫県伊丹市＝と女性施設長（36）＝大阪府茨木市＝を業務上過失致死の疑いで書類送検した。

准看護師の送検容疑は昨年8月20日夜、寝たきりの女性のたんを吸引する際に人工呼吸器の電源をいったん切ったが、再起動させずに酸素不足で窒息死させたとしている。

また施設長は、その約2カ月前にも、この女性の人工呼吸器の電源が約30分間切られたままになっていたことがあったにもかかわらず、家族や運営会社に報告せず、再発防止策を怠ったとしている。

府警によると、女性は常時、人工呼吸器を着ける必要があった。たん吸引の際、気管からチューブを抜くと警報音が鳴るため、施設ではそれを避けようと電源を切ることが常態化していたという。

施設の運営会社「ベネッセスタイルケア」（東京都）の担当者は「被害者と家族に深くおわびする。再発防止が責務と考えている」と語った。女性の遺族は「同じ事故が繰り返された。安全が軽視され、残念でならない」とコメント。運営会社などを相手取り、損害賠償を求める訴訟を起こすことも検討しているという。【山田毅、宮本翔平】

朝日新聞デジタル 2017年1月5日 22時39分

## 人工呼吸器の電源入れ忘れ、ホーム入居者を死なせた疑い

大阪府吹田市の有料老人ホーム「メディカル・リハビリホームくらら吹田」で昨年8月20日夜、入所中の重病の女性(68)が付けていた人工呼吸器の電源を入れ忘れて、窒息死させたとして、大阪府警は5日、施設長の女(36)＝同府茨木市＝と准看護師の女(53)＝兵庫県伊丹市＝を業務上過失致死の疑いで書類送検し、発表した。共に容疑を認めているという。

捜査1課によると、准看護師は「たんの吸引の際にアラーム音が鳴るのが煩わしく、普段から電源を切っていた」、施設長は「医療行為は医師や看護師に任せていた」と供述している。

女性は筋肉が萎縮する重病で、自発呼吸が困難だった。昨年6月にも別の看護師が女性の人工呼吸器の電源を約30分入れ忘れていたが、女性の家族には伝えていなかったという。

遺族は「入居者の安全という根本的なことが軽視され、企業の都合が優先されたことが残念でならない。二度と同じような事故を起こさないでほしいと強く願う」との談話を出した。